

まちあるきマップ『ながさき散歩手帳～新大工町～』

ー長崎を訪れる観光客・長崎市民の一助としてー

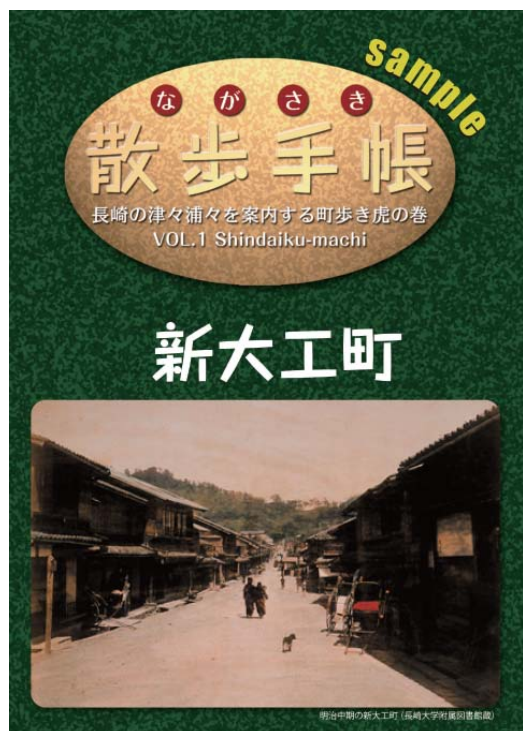
観光地では、施設や交通案内・グルメ情報などが掲載されている地元の観光協会などが作成した観光案内パンフレットをよく見かけるが、最近ではNPOなど、地元住民が作成した手作り感溢れるものも数多く見受けられ、観光客を楽しませるツールの1つとなっている。

ここ長崎でも、訪れる観光客に少しでも満足していただければ、と1人の市民がまちあるきマップを発案、この程完成させた。

1. 「新大工町」という歴史ある1つの町に焦点をあてたマップ

このまちあるきマップを作成したのは、長崎市新大工町の隣町に本社を構える扇精光株式会社の会長・扇道徳氏である。もともと長崎街道に興味があった扇氏は、その起点であり、西洋医学を日本に伝えたシーボルト宅や長崎初となる「トードス・オス・サントス教会」（現・春徳寺）、江戸時代に町民のためにできた水道施設としては江戸に次いで古い「倉田水樋^{すいひ}」の水源などといった、歴史や近代化遺産が凝縮された町「新大工町」に着目しており、今回のマップは、2010

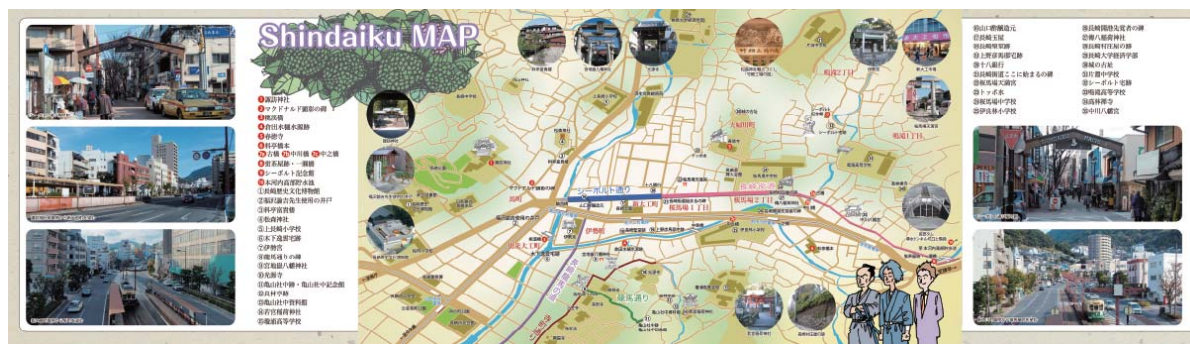
年1月に自らが同町に関する講演を行うため、町内を歩いて作成した資料を基にしたもので、2010年5月末に完成した。



まちあるきマップ『ながさき散歩手帳～新大工町～』表紙



出来上がったマップは、『新大工町』という1つの町についてのみ焦点を当てており、このような形式のガイドブックの類はこれまで長崎市にはなく斬新なものとなっている。また、観光客がまちを散策する際に携帯しやすいよう、見開き1枚ものとし、町の地図や主な名所・旧跡の写真と紹介文を掲載、加えて、わかりやすく地図と対比できるように、現在の町の空撮写真も掲載した。



名所・旧跡の紹介部分



QRコードを携帯で読み込むと・・・
写真と音声ガイドをご紹介します！
(QRコード読み込みは、Ustreamアプリで)



マップの中身の一部

携帯電話で読み取り可能なQRコードを掲載

2. 新たな試みを導入

また、このマップにはこれまでの観光ガイドブックなどには見られない、新たな試みも導入されている。それは、扇氏の「有名な語り部やガイドさんから観光地の詳しい案内・説明をしても、わがわが長崎に来られた観光客の皆さんをがっかりさせたくない。」との強い思いにより、当該マップには主要施設や史跡別にQRコードを掲載、携帯電話を通して音声解説を聴けるよう工夫したことである。これにより、観光客はこのマップ1つで「目」と「耳」の両方でガイドを受けられるようになった。また、「観光ガイドブックなどは、使用后すぐ捨てられるものが大半ですが、このたび作成した散歩手帳は、旅行から帰宅後も関心のある史跡などについていつでも情報を“聴く”ことができますので、すぐ処分される可能性も低く、環境にやさしいものとなるでしょう。」(扇氏・談)、との狙いもある。

3. 長崎を訪れる人や市民の理解度を高めるために

長崎市には現在、大河ドラマ「龍馬伝」の影響により、関連施設に多くの観光客が押し寄せている。例えば、目玉施設・亀山社中に観光客が入場するためには、休日ともなると1時間待ちとなる日も多く、このような観光客の不満を少しでも解消するためには「観光客に対するおもてなしの心」を地元住民の間に醸成しておくことが有効となる。

この点、住民自らが発案し、作成した観光マップなどは、一般の旅行ガイドブックには掲載されない地元しか知らないような史跡やエピソードなども掲載されており、総じて観光客に好評である。2009年4月より長崎県内では「長崎県総おもてなし運動」が展開されているが、今回のマップのように、地元住民の視点で作成された観光ツールは、観光客の不満を和らげることに貢献することとなろう。また、扇氏は「長崎の先人たちはベンチャー意欲が高かった。例えば、1891年(明治24年)に横浜、函館に次いで完成した上水道施設「本河内高部貯水池」は、幕末の長崎貿易商人が自らの積立金(民間資金)で



坂本龍馬関連施設の紹介部分

造ったものです。この散歩手帳は、こうしたいろいろな情報を盛り込んでいるので、ホスピタリティはもちろん、観光客や地元住民に偉大な長崎の先人たちに対する意識も高めて欲しいのです。」とも話している。

長崎市内には、新大工町のように歴史ある町が他にも点在していることから、「今回の散歩手帳作りをきっかけに、他の町についても同じようにエリアにこだわったものを作成し、観光客へ提供することで、“長崎”というまち全体に満足して帰っていただけたら。」と扇氏はその広がり期待している。

このように、1人でも多くの地元を愛する住民が行動を起こすことで、長崎がホスピタリティの高いまちとなっていけば、持続的に人々が集い賑わうまちとなろう。



おうぎ 扇 道徳

昭和5年1月、長崎県下県郡（現・対馬市）厳原町生まれ
産業能率大学卒
昭和26年4月 長崎県対馬支庁勤務
昭和33年11月 扇測量器店創業
昭和38年6月 扇精光株式会社へ改組 代表取締役
平成21年4月 扇精光株式会社 代表取締役会長

（杉本 士郎）